Local Potate Summit

ローカルポテトサミット2022

2022年7月31日（土）開催報告

-作付報告-

-収穫作業体験-

-ジャガイモ試食-

在来ジャガイモプロジェクト

全国の源流域の地域には、小菅村の「富士種」のように、地域に愛され食文化になっている在来ジャガイモがあります。

しかし、生産者の減少や急傾斜地での農業の厳しさなど、多くの課題に直面しています。

本プロジェクトでは、地域や生産者が抱える課題を共有し、継続的な生産ができる仕組みを考えつつ、次世代へ在来品種と食文化を継承することを目的としています。

「ローカルポテトサミット」は、その課題の共有や生産者の交流、在来ジャガイモを多くの方に知っていただくため開催しました。

開催概要

- **会場**　村内圃場、小菅村中央公民館
- **日程**

午前の部　10：30～12：00

村内圃場にて、在来ジャガイモ各品種の収穫。品種ごとにイモの形状や地中での出来方が違うこと等を観察しながら収穫しました。

午後の部　13：00～15：30

在来ジャガイモについて
小菅村での栽培実験報告
生産地からの報告
意見交換
ジャガイモの試食

- **参加人数**　20名

当日並んだ在来ジャガイモ8品種

富士種	山梨県小菅村
落合いも	山梨県丹波山村
つやいも	山梨県丹波山村
ふじのねがた	山梨県上野原市
治助いも	東京都奥多摩町
おいねのつるいも	東京都檜原村
立ち枯れいも	群馬県上野村
赤いも	群馬県上野村

源流大

ローカルポテトサミット2022　主催：NPO法人多摩源流こすげ　協力：小菅村役場

植付け～土寄せ～収穫の各作業では、大学生と一緒に作業しました！

4/16 種いも植付け

5/29 土寄せ・落ち葉マルチ

7/17～ 収穫

落ち葉マルチを実践！

小菅村では5月の土寄せの際に、畝や株の間に落ち葉を敷き、天然のマルチにしている農家さんが多くいらっしゃいます。私たちも昨秋に集めた落ち葉を使って在来ジャガイモに実践しました。

キタアカリ、メークインといった品種では、葉が広く茂るので自然と雑草が抑えられていました。在来ジャガイモは、**「葉の展開が一般品種より乏しい」**ため収穫期までに雑草の繁茂、倒伏した時の収穫作業の省力化などを考えた在来品種ならではの工夫のようです。

富士種の芽かき実験

市場に出回る品種では、芽かきをするのが一般的ですが、富士種を含め各在来品種生産者の多くが、芽かきをせずに栽培するとのことでした。そこで、芽かきを実施した場合と、実施しない場合でイモの収量や大きさ等に違いができるのか実験してみました。

実験結果

芽かき	1株当たりの平均収量	サイズ	いもの個数
あり	442 g	Lサイズが少し出る	少なめ
なし	432 g	中～小サイズ	多め

芽かきあり 8株分

芽かきなし 12株分

芽かきを実施しなかった株は、中～小さめのいもが多く収穫できました。一方、芽かきを実施した株は、大きいイモがでる一方で、個数は少なくなりました。

「煮っころがし」や「イモ串」などの伝統料理に使う小ぶりなイモを生産するには、従来通りの**芽かきをしない方が適している**ことが分かりました。

落ち葉は宝！　毎年あつめます。

在来ジャガイモや畑の畝間に、落ち葉を敷き詰めたり、植付の際に腐葉土化した落ち葉を入れたり畑仕事では貴重な落ち葉。

初冬の頃には、車道の側溝や道路際のフェンスの中からせっせと落ち葉拾いをしている村民の方や、道路際にこんもりと山もりになった落ち葉を見ることがありました。

しかし、最近は畑をやる人が減った？のか、道路際やフェンスには落ち葉が溜まり放題になっています。

昨年から源流大学でも落ち葉拾いを積極的に実施し、畑仕事でつかったり、山の環境改善に活用しています。

源流の森からの恵みを「道路のゴミ」としてしまうのではなく、貴重な資源として畑や山に還す、まさに「資源の循環」をおこなっていきたいと思います。

植樹の際の、苗木を植える穴や周辺にも落ち葉を使用。

地区の方にも協力していただきました。

～今後の展開～

地域で長年受け継がれてきた在来ジャガイモ栽培と食文化を絶やさないためにも、これからも生産を続けていける体制づくりを進めていきます。

在来品種のPRを進め、販路を拡大する他、農作業の省力化や他地域住民と連携した生産など栽培の負担軽減の方法を模索していきたいと思います。

そのためにも、在来ジャガイモを通じた各地域や生産者、協力者の皆さんとの連携をさらに拡げていきます。

【お問合せ】
多摩川源流大学 TEL 0428-87-7055　E-mail info@npokosuge.jp